

音楽科学習指導案

指導者 福山市立芦田中学校

田中 晶奈

- 1 日時 平成23年11月11日(金)
- 2 学年 3年1組(男子13名 女子16名 計29名)
- 3 題材名 『合唱の喜び』 ～曲のしくみを理解して表現しよう～
教材名「変わらない想い」 松井孝夫 作詞・作曲
「We are the one」 吉岡ひとみ 作詞・作曲 松井孝夫 編曲

4 題材について

(1) 新学習指導要領とのかかわり

中学校学習指導要領第2学年及び第3学年

A 表現(1)ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。

ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

[共通事項] 音色、旋律、テクスチャ、強弱

(2) 題材観

本題材は、歌詞の内容や曲想を味わい、表現したい思いや意図をもって曲にふさわしい表現を工夫して歌う能力を高めること、音楽の構造におけるそれぞれの声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌う能力を高めることをねらいとしている。生徒が合唱の体験を通して、表現したいイメージを伝え合い、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じるにより、主体的・協同的な音楽活動につながると考える。

今回、教材としてとりあげた「変わらない想い」「We are the one」は、出だしの8小節がユニゾンで、続く次の8小節は、一方のパートがオブリガートに変わるという共通点がある。2曲を続けて学習することで、主旋律と副旋律のバランスを工夫して、声部の役割と全体の響きとのかかわりをより深く理解できると考える。

特に、本題材において主として扱う「We are the one」は、作者がタイ在留中に今後の未来を担う子どもたちへのメッセージを込めて作詞したものである。多くの人と共に幸せを感じ、真の優しさとは何かを考えさせられるこの歌詞は、今の震災復興への歩みを進める日本の現状と重なるものがあり、生徒の共感を生むと考える。楽曲の特徴としては、22小節目から33小節目までは、15小節目からのオブリガートによる響きの広がりを感じたり、歌詞に込められた思いを感じ取ることで、勢いを持って声を出したいという気持ちが自然と起こるものと考えられる。また、特に全体の響きに意識を向けさせることで、混声三部合唱の豊かな響きを味わうことができる。さらに、曲全体を通して、強弱や休符の意味、リズムの特徴を意識した歌唱技能を身に付けることのできる教材である。

(3) 生徒観

本学級の生徒に実施したアンケート(「授業で歌うことが好きか」)の結果は次の通りである。

	肯定的回答	否定的回答	否定的回答の理由
4月	56%	44%	「のどが痛い」「声を出すことが苦手」など
9月	71%	29%	「きれいな声が出ない」「音程がずれる」など

1学期の取組みによって、肯定的回答が増えている。その理由として、「自分を表現することができるから」、「クラス全員で協力して歌うことで一体感が生まれるから」などがある。

授業で見取れる生徒の変容は2つある。

- ・音読によって、言葉の発音を意識して歌うことができるようになった。
- ・音楽の構造を学習することで、楽譜上の音の重なりに着目するようになった。

一方で、「他のパートを意識して合唱しているか」との問いには、約30%の生徒が「意識できていない」と答えている。

以上のことから、本学級の生徒の習得すべき課題は以下の3つととらえた。

- ・全員が一つの音楽を創り上げる喜びを体感すること。
- ・言葉の特性を生かした合唱表現に必要な発声等の技能を身に付けること。
- ・声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して歌うこと。

(4) 指導観

指導にあたっては、本時の支えとなる〔共通事項〕をもとに音読を仕組み、曲にふさわしい表現を工夫したり、技能を習得する学習活動を取り入れる。また、歌詞や楽曲に込められた思いや、表現したいイメージを伝え合うことを通して、表現を工夫する学習活動を行う。

また、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解するために、テクスチャに着目させ構造をとらえさせる。それぞれの声部をどのように歌ったら全体の響きがよりよくなるかを聴き合いながら表現に生かすようにしたい。

5 題材の目標

- 歌詞の内容や曲想を味わい、思いや意図をもって歌唱表現を工夫する。
- 声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした合唱表現をする。

6 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
<ul style="list-style-type: none">・歌詞の内容や曲想に関心を持ち、曲にふさわしい歌唱表現に意欲的に取り組もうとしている。・声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、主体的に歌唱表現に取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫している。・音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	<ul style="list-style-type: none">・歌詞の内容や曲想、言葉の特性を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けて歌っている。・声部の役割を生かし、全体の響きに調和させた合唱表現をするための技能を身に付けて歌っている。

7 指導計画 (全9時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				具体的評価規準	評価方法
		関 心	感 受	技 能	鑑 賞		
一	「変わらない想い」を 旋律, テクスチャ, 強弱などから生み出される特徴を理解して合唱する。						
	・曲の雰囲気をつかみ, 各声部の音取りをする。(1時間)	○				・曲の持っているよさや歌詞から生み出される特質に関心をもち, 歌唱表現をすることに意欲的に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート
	・言葉の抑揚や語感を生かした歌唱表現をする。(1時間)			○		・言葉の抑揚や語感による言葉の特性を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けて歌っている。	行動観察
	・各声部の役割, 構造を理解して合唱する。(1時間)		○			・各声部の特徴と役割, 声部の構造, 曲の仕組みを感じ取って音楽表現を工夫し, どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	行動観察
	・声部の役割と全体の響きを生かして合唱する。(1時間)			○		・他の声部の役割や全体の響きの調和を感じ取って, 合唱表現をするための技能を身に付けて歌っている。	行動観察
二	「We are the one」を 音色, テクスチャ, 強弱などを知覚し, 歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫して合唱する。						
	・曲の雰囲気をつかみ, 各声部の音取りをする。(1時間)	○				・声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち, 主体的に歌唱表現に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート
	・言葉の抑揚や語感を生かした歌唱表現をする。(2時間)			○		・言葉の抑揚や語感による言葉の特性を生かした歌唱表現をするための技能を身に付けて歌っている。	行動観察
	・主旋律の移り変わりを理解し, テクスチャを感じ取りながら歌唱表現をする。(1時間) 【本時 8/9】			○		・他の声部の役割や表現意図を生かした合唱表現をするために, 必要な技能を身に付けて歌っている。	行動観察
	・歌詞の内容を味わい, 思いや意図をもって曲にふさわしい合唱表現を工夫する。(1時間)		○			・歌詞の意味, 背景にある情景や心情, 歌詞の構成を理解し, 自己のイメージや感情を生かして歌唱表現を工夫している。	行動観察 ワークシート

8 本時の学習

(1) 本時の目標

声部の役割と全体のかかわりを理解し、合唱表現を工夫する。

(2) 本時の学習展開

学習活動と予想される反応	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
1 音読をし、合唱する。 2 本時の目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・テクスチュアと明確な発音を意識させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【A】の音の重なりを理解し、響きのある合唱ができる。 </div>		
3 【A】部分の副旋律の歌い方を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと柔らかい声で主旋律を支えるように歌う。 ・主旋律を聴きながら歌う。 ・主旋律を引き立てるように強弱を工夫して歌う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・【A】部分には【A】部分からの変化や【B】部分への盛り上がりといった効果があることを思い出させる。 ・目指す副旋律の歌い方に近づけるための具体的な手立て（言葉の発音，呼吸法，姿勢，音色）を考えさせる。 	
4 【A】部分をパート練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・声の響きや支えのために必要な点を助言する。 	
5 全体で一番を合唱し、録音する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3で目指した声を意識させる。 	
6 録音を聴き、表現の工夫について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・テクスチュアに着目して聴かせ、課題を明確にさせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・男声が響くようになったのは、お腹の支えができていたから。 ・副旋律が強すぎる（弱すぎる）ので、バランスを工夫したい。 ・高音の響きをもっと出したい。 ・男声パートを正しい音程で歌いたい。 </div>		
7 全体で練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発声，言葉の発音，呼吸法，身体の使い方を意識させ，部分練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の声部の役割や表現意図を生かした合唱表現
8 全曲通して合唱する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各声部の役割と全体の響きとのかかわりを意識して合唱させる。 	<ul style="list-style-type: none"> をするために，必要な技能を身に付けて歌っている。
9 本時の振り返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> 【表現の技能】 (行動観察)